



見学旅行

京都・大阪・神戸に行ってきました

6月24日（日）～6月29日（金）の5泊6日の日程で見学旅行に行ってきました。24日と29日は移動のみでしたが、25～28日には様々な場所を訪れました。

25・26日は京都と大阪で自主研修を行いました。京都では最初に全員で清水寺を見学した後、生徒と教員で分かれて行動しました。生徒は金閣寺や嵐山などの観光地を巡りました。京都の文化に触れて見聞を広めていました。また、大阪では海遊館へ行って珍しい海の生物を見学したり、道頓堀などで散策を行って串カツなどを食べて満喫していました。27日は今回の見学旅行の目玉であるユニバーサルスタジオジャパンに行って、大人気のアトラクションに乗ったり、色々なキャラクターたちが彩るパレードを見ました。疲れもあったはずですが、それを忘れるぐらい生徒たちは心ゆくまで楽しんでいました。28日は神戸で自主研修を行い、北野異人館街で洋風の街並みを観光し、南京町で美味しい中華料理を食べて感動していました。

見学旅行を通して様々なものに触れたことで、生徒たちは一層成長することができました。



花植え ボランティア 島内を花で美しく

6月11日（月）に花苗をプランターに植えるボランティア活動が行われました。

この活動は、総合的な学習の時間の一環として平成17年度から行っている恒例の活動です。



作業には全校生徒8名と教員が参加し、羽幌町から贈られたサルビアやマリーゴールド、ペゴニア、インパチェンスの苗のほか、ガザニア、アゲラタムの苗を追加し、約70個のプランターを作りました。生徒達はプランターに新しい土を入れてシャベルでよく混ぜたり、花の根がのびのび育つように、軽く根の近くの土をほぐしたりする作業を行った後、花苗を丁寧にプランターに移

植し、校舎周辺に置きました。

作ったプランターの一部は高齢者支援センターや天売フェリーターミナルなどに配付され、天売在住の皆さんや天売島に来た観光客の目を楽しませています。

図書を紹介 心を揺さぶられた本

「アルジャーノンに花束を」ダニエル・キイス著



チャーリーは知的障害の青年であり、幼児並の知力しか持っておらず、そのことで働いているパン屋の従業員にからかわれたり、幼少時に母親に捨てられたという事実は理解できない。

ある日、開発されたばかりの脳手術を受けるよう勧められる。先んじて動物実験で対象となったハツカネズミの「アルジャーノン」は、驚くべき記憶・思考力を発揮する。この手術の人間に対する臨床試験の被験者第1号として、彼が選ばれたのだった。

手術は成功し、チャーリーのIQは68から徐々に上昇。ついには185に達し、彼は超知能を持つ天才となった。ここから悲劇の物語が始まる……………。

SFではあるが、これを読み終えたとき、あなたの胸の中に何ともいえない「せつなさ」が残ることは間違いありません。文章も読みやすく読書初心者にもぴったりの1冊です。本校図書室にもハードカバーと文庫タイプの計2冊を所蔵してあります（写真）ので、どうぞお読みください。

定通体連 地区大会・全道大会



5月27日に開催された北海道高等学校定時制・通信制バドミントン大会空知支部予選会に、バドミントン部8名が参加しました。男子個人では、3年の宮地君が決勝で経験者相手に勝利し、見事に優勝しました。また、2年の三品君は昨年のリベンジを果たして第3位に入賞しました。女子個人では3年の三浦さんが準優勝、菅原さんが第3位と、4名の選手が全道大会出場を勝ち取りました。



6月17日18日に旭川で開催された全道大会では、男子個人2名と男子団体は初戦敗退となりました。しかし、女子個人では三浦さんと菅原さんが見事に1回戦を突破しました。2人とも惜しくも2回戦敗退となりましたが、全員がこの1年間の練習の成果を発揮できたことと思います。定通体連参加に際しましては多くのご声援をいただきありがとうございました。



島民大運動会

今年は白組が勝利！



全国募集を始めて、今年で三回目の島民大運動会。三度目の正直となるか、と思われた天候も、残念ながら恵まれず、今年も実施延期されて、6月3日(日)に行われました。ちびっこ、小学生、中学生、高校生、そして島民が参加し、総勢60名ほどの大人数で、様々な競技を楽しみました。



高校生は、「100m走」や中学生と一緒に綱を取りあう「3色綱引き」、なわとびや借り人などがある運命走「天高フレンドパーク」、そして、今年初企画のながーい筒を持って走る「天高長バトンリレー」に参加し、運動会を盛り上げました。

競技への参加だけではなく、小中学生と協力して審判、記録、用具準備に携わり、全体の進行を補助しました。ずっと休むことなく、頑張っていました。

最後まで熱戦が繰り広げられ、今年は白組の大勝利！盛会のうちに終わることができました！



水産実習 第2回はタコ燻製



6月5日(火)と6月6日(水)に水産実習の第2弾「タコ燻製づくり」が行われました。



作業はまず、約60kg分のタコの頭部の皮を剥ぎ、丁寧にぬめりを取ります。このぬめりとりが手間のかかる大変な作業です。次に身を3cmほどの幅に切り、樽の中で味付けを行います。これで1日目終了です。2日目はこれを取り出し網に広げて、次の乾燥の工程に進みます。乾燥は約10日ほど、半日ごとに風乾と燻乾を繰り返します。そして身の中の水分がすっかり無くなれば完成です。

3年生は、慣れた手つきでぬめりを取る姿に3年間の実習の成果が表れていました。また、前回の実習で初めてマキリ(包丁)を手にした1年生も少しずつその使い方に慣れ、成長の跡が窺えました。今回作ったタコ燻製は、9月の天高祭で地域住民に試食してもらう予定です。今年も美味しく仕上がりましたので、どうぞお楽しみに。

天売学「天売の自然」 東農大教授を迎えて

6月9日に天売の自然に関する天売学が行われました。今回は東京農業大学から小林万里教授を講師に招き、天売島に生息するアザラシやアシカなどの鰭脚類(ききやくるい)について学びました。

イルカやラッコなどの海生哺乳類は陸上哺乳類から進化し、海の生活に適応した体をもつことがわかりました。また、海生哺乳類の中で、鰭脚類の漁業被害が深刻化している問題が取り上げられ、講演後、生徒たちはグループに分かれて鰭脚類の動物と共生していく方法を話し合いました。漁業被害を軽減する方法や鰭脚類の活用方法など、生徒たちは自由な発想で意見を出し合い、天売の自然と人間生活について考えることができました。

